

地方だより

若松測候所

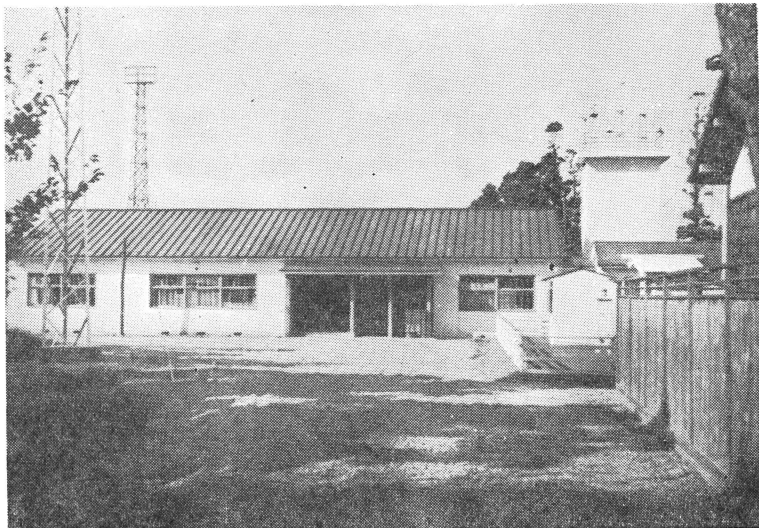
民謡『会津磐梯山』で知られた宝の山磐梯山の麓にひろがる会津盆地、その中に今はただ苔むした石垣、老松、古杉に往時が偲ばれるだけの鶴ヶ城跡を中心に静かなたたずまいを見せる城下町会津若松市がある。小原庄助さんの誕生の地だけのことはあって、人口の割に赤ちょうチンの数が頗る多い。しかし、庄助さんのようなユーモラスな人物が生

れた反面、壮烈な自刃をとげた有名な白虎隊発祥の地でもある。紅顔の少年達が、怒濤の如く押し寄せる官軍に対して最後まで主君のため戦い、従容として死んでいった白虎隊の話は、現代ではあまり歓迎されなくなってしまった。根から会津っ子である吾がそれを語る時にははにかみさえ感じる。

しかし行動の是非は別として、その気魄には一種の郷愁と憧憬をも感じている。さて当若松測候所は会津若松

市の西端にあり、総員15名、若松気象通報所、只見気象通報所の4名を加え、19名が福島県の42%を占める会津地方の気象業務になっている。

終戦後電力の宝庫として只見川にわかにスポットライトをあび、電源開発が急速に進め

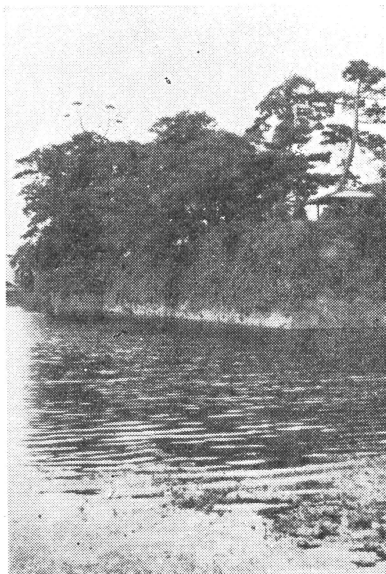


若松測候所

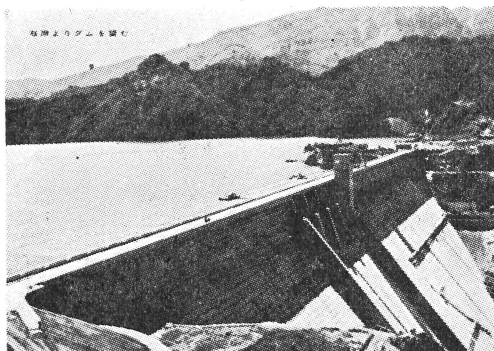
られ、上流から日本最大級を誇る奥只見、田子倉などのダムをはじめ、大鳥、滝、本名、宮下、新郷など10万KW前後の発電所が30箇所近く建設された。田子倉の最大出力は38万KW、只見水系全部では200万KW近くに達し、電源地帯会津は大きくクローズアップされた。かくしてダムコントロール上、会津の水気象の重要性は非常に大きくなり、このような特殊な性格と使命をもって、当測候所は昭和28年に創設された。

従ってロボット雨量計、長期自記雨量計など水理気象業務のための設備は地方気象台並で、春の設置時、秋の撤収時などには職員の半数近くが山に出張し、役所内は閑散としてしまうことがしばしばある。しかし山を愛し、任務の重要性を感じている吾々は黙々と山を歩きまわり、苦しみは冷い清水に流しながら豪気朴訥な会津魂を養っている。

(五ノ井信雄記)



鶴ヶ城跡



田子倉ダム